

どんどん犬鳴山周回ハイク ～不遇な都市伝説エリアをゆく～

【報告者】T橋

【日時】2017年8月11日 【天候】晴れ

【参加者】T橋

《コースタイム》

犬鳴ダムP0800－新犬鳴トンネル－どんどん 0900－尾根合流－柳原越－古犬鳴峠
1100－犬鳴尾根分岐－犬鳴山 1240－犬鳴ダムP1330

《 報 告 》

「犬鳴山」「犬鳴峠」で検索すると、まず登山ではなく例の都市伝説がヒットする。「ここから先は日本国憲法が…」というアレだ。こんな全国あちこちに存在する噂話に影響されているのか、どうもこの山系には「三郡縦走」のような明るいイメージが少ない気がする。都市圏からは同じくらいなのに、あまり人が入らない。ただその分、地図を片手にどっぷり山に浸かることはできそうだ。今回はその中でも迷いやすいと評判のルート。しっかり歩かねば。

犬鳴ダムの駐車場を、集まってきた猫軍団に見送られ（猫鳴山か！）県道沿いを進む。初めてのどんどんへのルートは、九電の巡視路をトレースした歩きやすい道。手入れされた樹林帯に黒プラ階段を辿り、鹿除けネットの鉄塔を抜けしばらくでどんどんのピーク。なぜどんどん？ 消えかかった道標は何も答えてくれない…。

そこからも気持ちの良い一本道を歩き、ほどなく猫峠からの道と合流。ここからが核心。急に鬱蒼としたルートはうねるように度々方向を変える。テープはあるが時おり作業用のものもあり判断に迷う場面も多い。ピークからは複数の尾根が分かれ、似たような地形が現在地をあやふやにさせる。何度か行きつ戻りつ時間をかけ、ようやくはっきりしたのが古犬鳴峠。車道ができる前の久山と脇田をつなぐ雰囲気のある峠だ。

そこからも尾根は相変わらずぐねぐねで、地図読みに集中したいのに何度も突っ込む蜘蛛の巣や耳周りを飛ぶ虫に気を削がれる。とにかく尾根を外さないように、大卒の方向を間違えないように進むのみ。犬鳴山への分岐を示す手書きの道標を見つけたときは正直ホッとした。

犬鳴山からのダム堰堤コースの下山もルート取りが手ごわく、結局最後まで気を抜くことはできなかった。都市伝説とかに浮かれてる場合ではない（お前がな）。確かにここは、しっかり準備して入るべき山域だ。



【出迎えは犬でなく猫】



【ネットの中のどんだんピーク】



【ところどころに手書きの地図が】